

担 当 所 属		担当者氏名	連絡先（内線）
森林研究所	森林資源部長	坂井至通	0575-33-2585 (221)

岐阜県森林研究所（所長 前田英典）では、重点研究課題「植物ポリフェノール等の健康増進成分に関する研究～森林資源の健康への利用に関する研究～」を実施しております。平成18年度の研究成果を県民の皆様に活用していただくため、下記のとおり発表会を開催しましたので、お知らせします。

- 平成18年度森林研究所重点研究課題成果発表会について -

～ 森林資源の健康への利用に関する研究（3年目）～

- ・期 日 ：平成19年2月17日（土曜日） 13：00～16：00
- ・場 所 ：〒509-2592 岐阜県下呂市萩原町羽根2605番地の1
下呂総合庁舎5階大会議室 TEL:0576-52-3111
- ・参加者 ：110名（農林業、農協・森林組合、企業、一般県民、市町村、県関係等）

内容

1 重点研究課題研究成果発表会 職員3名による研究成果発表を行いました。

「山菜、根菜類を利用した里山の健康食材の開発を目指して」

- 森林資源部 専門研究員 茂木靖和

里山で採れる山菜や野草は、古くから馴染まれてきたが、林床で栽培し商品化する試みはあまり活発でなかった。根や根茎を薬用とする植物の中には、食用としての利用が可能なものも多い。これらは健康食材としての利用が期待でき、今後地域特産物に繋がっていく可能性があるため、このような植物の利用と林床での栽培について紹介した。

「里山で発見した「つる性植物」の果実」 - 森林資源部 主任研究員 上辻久敏

山間地域の日当たりの良い谷沿いでは、サルナシやマタタビ、アケビなど食べることができつる性果実を見かけることがある。これらの果実は、ジュースやジャムなどに利用されており、山間地域の作物として期待される。山に自生するつる性植物から、新しい作物を探すための一例として、食味に影響する成分を指標にした果実の評価方法について紹介した。

「里山で栽培できる薬用キノコ」 - 森林資源部 部長 坂井至通

食用キノコ（シイタケ、マツタケなど）に比べ、薬用キノコはスーパーマーケットに並ぶことはなく、漢方薬への配合（ブクリョウ、チョレイ）や健康食材（サルノコシカケ、アガリクスなど）に使われてきた。また、食用キノコとは流通経路が異なることや市場規模が小さいこと、栽培方法がなかったことなどから、山間地での栽培品種として注目されることがなかった。最近では、健康キノコの栽培が注目されるようになり、高付加価値化、ぎふブランド化、独自栽培方法による産地化などを目指し研究を行ってきたので紹介した。

2 岐阜県科学技術顧問特別講演会 演題「炭と煙の新しい利用」

講師：秋田県立大学木材高度加工センター 教授 谷田貝光克 先生(東京大学名誉教授)
木質系バイオマスから作り出される木炭の機能とその機能を活かした新たな用途開発について、講演していただきました。

講師の言葉

- ・地球温暖化を助長する石油・石炭等の化石資源に代わる資源として再生可能で、カーボンニュートラルな森林資源のバイオマスが近年注目され、その利活用が積極的に進められている。そのような中で、各種バイオマスを炭材とした製炭が静かなブームをよび、木炭、木酢液の新たな利用開発も行われている。
- ・木炭の用途が主として燃料であった時代には、コナラ、クヌギ、ウバメガシといった炭材が好んで使われてきたが、バイオマスの有効利用の観点から今までは廃棄、あるいは単に焼却処分されていた木質系廃棄物も炭材として利用されるようになってきた。炭材の形状、種類に合わせた炭化炉の開発もすすめられ、生産される木炭の特徴に合わせた用途の開発も行われている。
- ・木炭の持つ多孔性は、土壌の透水性、保水性の改善や大気中の湿度調整機能、水中の汚染物質、室内空気中のVOC吸着をもたらす。これらの機能は、最近になって出現したというわけではなく、かつての生活形態から経験的に見いだされたものである。
- ・木炭の機能の科学的証明と新たな用途開発の試みだけでなく、製炭時の排煙から生まれる木酢液の作用と利用方法についても紹介した。

□本会に寄せられたご意見・ご感想

参加者110人のうち65人の方が、アンケートを通してご意見・ご感想をお寄せくださいました。うれしい感想から厳しいご意見まで、たくさんのご回答をありがとうございました。以下はその一部です。

- 「よく知っているキノコや山菜、根菜類の話が聴けてとてもよかった(50代女性、農林業)」
- 「今回、研究発表を聴かせて頂き、研究所の方々が日々いろんな努力をされているのを知りました(50代女性、その他)」
- 「林産物への調査研究を健康等へ結びつけていて面白いと思います(30代男性、公務員)」
- 「本日の発表内容をさらに実用化した内容での発表になるとすばらしいと思います(70代男性、その他)」
- 「研究結果をいかに普及、あるいは普及させるかについての視点が低かったように思います(30代男性、公務員)」
- 「一般企業としては、今後の研究方向や研究課題についてもスケジュールを含めて可能な範囲でお聞きしたいと思いました(50代男性、製造業)」
- 「研究、講演会、年一回であるかもしれませんが、せっかくの機会なので、もっと時間をかけて話を聞かせて欲しかったです(70代男性、その他)」



「炭と煙の新しい利用」講師：秋田県立大学木材高度加工センター 谷田貝光克 教授



「山菜、根菜類を利用した里山の健康食材の開発を目指して」 専門研究員 茂木靖和



「里山で発見した「つる性植物」の果実」 主任研究員 上辻久敏



「里山で栽培できる薬用キノコ」 森林資源部長 坂井至通